新年度スタート！
子どもたちとの出逢いを作る　ベテランの先生の工夫をちょこっと紹介

4月

●新学期 子どもたちを迎える、学級開き

中学校1年生。入学式での出会いは非常に緊張感があります。それは、子どもも親も、教員も。その出会いをどのように迎えるか。まずは、教室環境の整備。きれいな机、きれいなロッカー、きれいなイス。子どもと親に少しでも安心してもらい、希望を持ってもらうかが勝負になります。

また、学校生活のルールばかりを教え込むことが大事なのではなく、いかに住みやすい、みんなが居心地が良いと感じる学級・学校を作っていくのかを一緒に考えていく必要があります。そして、日常生活の細かない所をたくさん褒めてあげましょう。そのためには、各教科の先生方に協力をお願いし、多くの情報を集めることが必要になります。中学校は、教科担任制であることを生かして、全員で生徒に関わっていく。「みんなが君たちを見ているんだよ」という安心感を持って生活できるようにしてあげたいですね。

学級開きから、最初の通信などやることは多いですが、先輩教員にたくさんアドバイスをもらいながら、進めていきましょう！（初めての通信は教頭先生にチェックしてもらいましょう！ちなみに私は、初任1年目の1年間は全ての通信を教頭先生にチェックしてもらいましたよ）

●授業づくり・授業開き

中学校での授業の最初は必ず1年間のオリエンテーションが必要になります。その時に、授業の内容と、評価について触れる必要があるでしょう。１年間どんな授業をし、成績はどのようについていくのかを明確にしておく必要があります。私はこの時に生徒との約束事を話し合います。「授業では君たちを〝〇〇〟と呼ぶけどいい？」「授業の最初と最後のあいさつはこうしたいんだけどいい？」「こういうのはいいけど、こういうのはイヤ。これについてどう思う？」など自分の授業を進める上で必要なものを生徒と共に確認していくことを大切にしています。教員からの勝手なルールの押しつけにならないように、確認します。でも、決めたことは最後まで1年間やり続けます。

●授業経営

どんなに事前に指導案を考え、準備に時間をかけたとしても上手くいかない時もあります。時には、全然準備してなくてやばーい！って時に反応も良く、上手くいく時もあります。でも、最初は指導案を作れたらいいですよね。昔先輩の教員にこんなことを言われたことがあります。「教師は授業が勝負。授業準備に時間をかけた分だけ、子どもとの信頼関係は生まれる。授業準備と信頼関係は比例関係だよ」この言葉を鵜呑みにした私はたくさんの時間をかけて指導案を作成し、掲示物づくりなどに没頭しましたが、今思えば比例関係か？と疑問になることもしばしば・・。

でも、これだけは言えるのは教科書のことばかり詰め込もうとするのではなく、「子どもの顔をイメージしながら準備」できると良いですよね。この投げかけだったらあの子はどんな反応をしてくるかなぁと顔をイメージするのです。そうすると指導案も生きたものになっていくでしょう。

宗谷の教育・学校づくりの１年間

中学校編

学校の１年間や、管内の行事、宗谷教組の行事などについて、簡単にご紹介します。「これってどういうことかなぁ」というのがあったら、近くの宗谷教組に加入している先生に聞いてみてください。

みんなで学ぶ「学び愛フェスタ」　5月

「来てよかった！！」と思った2時間でした。
いろんな子どもや保護者の顔を思い浮かべながら聞かせて頂きました。／色々なしかけがある話でとても勉強になりました。一番印象的な言葉「こどもから教えてもらうことがある。」、そのことを大切にして、日々こどもたちと生活していきたいと思います。（学び愛フェスタ感想より）
宗谷管内の多くの仲間が集まり、そして自分たちで学びを豊かにしていくそんな場が！！昨年度２２回目を迎えた「学び愛フェスタ」です。その名の通り、愛にあふれる温かい学びの場。その場を今年度、来年度、そして未来へとつなげていくのは、現在の私たちなのだと思います。懇親会も含めて、みんなで参加しませんか？

◆「学び愛フェスタ」は、宗谷教組を中心に実行委員会を結成して実施しています。

種目を通して高まり合う運動会　6月

中頓別中は、運動会が5月の下旬に行われます。

１年生にとっては、初めてづくしの中学校生活が次々とやってくる中で、１学期の一大行事です。連休明けに中中の運動会がどのようなものかを説明して、目標づくりを行います。中頓別の子は、素直な子が多く、行事に対してとても前向きに取り組みます。一つ一つの練習にも、張り切って取り組みます！二組に分かれてのチーム練習では、先輩たちの一挙手一投足を参考にして必死に取り組む姿はとてもすばらしいです。チーム練習後の学級では、先輩の取り組む姿や面白かったアクシデントを勢いよく交流します。中頓別らしい競技として「頓別川上り」があります。子どもたちが四つん這いになって、背中を渡っていくレースです。思春期の子どもたちですが、勝つために両手両膝泥だらけになって四つん這いになっていく先輩たちの姿を見て、奮闘する入学してきたばかりの１年生も少しずつ中学生らしくなっていきます。

】

管内母女・管内研、学ぶ機会が盛りだくさんの秋

毎年秋は、盛りだくさんの「学びの秋」となる宗谷です。

「母と女教師の集い」（通称母女(ははじょ)）では多くの保護者・地域の皆様と共に講演会、分科会、講座で学びあいます。昨年度は、絵本作家の宮西達也さんを講師にお招きしました。分科会・講座では、親子で体を動かしたり、クッキングをしたり、子育てについて語ったりと、すべての母親と子供たちが健やかになってくれることを願い活動しています。もちろん、男性の先生方の参加や協力も不可欠です。教師と、地域保護者が一体となって創り上げている会です。

管内的な学びの場として、宗谷管内教育研究大会があります。昨年度で三回目の開催となりました。子ども達の確かな学力づくりと豊かな心を育むため、管内的な学び合いの場を作り出そうというねらいをもって、宗谷管内の教育関係者の念願が叶った大会です。宗谷管内の教職員が数百人規模で集まる様子は圧巻です。「自分の専門科目を学びたい」、「実践の検証をしたい」など宗谷管内の先生方が一堂に会して学びあう貴重な大会です。

9月

◆管内教育研究大会は、管内の教育関係者が実行委員会を結成し、運営されています。
◆管内母と女教師の集いは、管内の女性教職員を中心に実行委員会を結成し、運営されています。

学級が一致団結する、保護者や地域も注目の　枝幸中学校文化祭「夢想漣えさしコンテスト」!!

枝幸中学校の文化祭では「夢想漣えさしコンテスト」として、地元の強豪チーム、「夢想漣えさし」の演舞を学級ごとに披露しています。

「学級の団結を高め、家族や地域の方に感謝とともに、感動を届けたい」と、子どもたちは演舞としてのパフォーマンスだけではなく、仲間どうし、そして地域の方との関わり、学びあいをとおして大きく成長します。夢想漣えさしのみなさんによる講習会や、プロジェクトのリーダーを中心とした仲間を大切にする学びあいをとおして子どもたちは高まっていきます。

文化祭は、１年間のなかで子どもたちの集中が最も高まっていく時期です。演舞の上手さだけではなく、ひとつのことに夢中になることから身につくこと、泣いて笑って時には怒りながら仲間と真剣に向きあうことから成長していきます。

「コンテスト見に行くでしょ！？」、「〇年〇組の演舞は良かったねぇ」等々、文化祭期間中、周囲から聞こえてくる話題です。
学校を越えて、枝幸町の文化となりつつあります。

10月

札幌で学ぼう！合同教研　11月

合同教育研究全道集会は、「平和を守り真実をつらぬく民主教育の確立をめざして」、１９７６年の第１回開催以来、道内の教育関係者、父母、道民が集い４０年近い歴史を刻んでいます。札幌を会場に大学などでの開催が多いです。午前はテーマ討論。午後から分科会、そして記念講演など非常に内容も濃い集会です。日ごろの実践をレポートにして持っていくことで、学びの機会が増え勉強になります。組合から旅費も出て学びにいけるので、非常に良い経験となるでしょう。学校現場では学ぶことのできない、目から鱗の学習が待っていますよ！

学校づくりと人事の取り組み　12月

まだ３学期は残っていますが、すでに次年度の人事の動きが始まるのがこの時期。まだ異動の基準年数に達していないから･･･と何も考えないでいると、後で焦ったり困ったりするよ。校長や、職場の仲間から必ず聞かれる時があるから、あらかじめこんなことを考えておくといいかも。

〇次年度、または何年後、自分はどの市町村、どの学校でがんばりたいと思っているのか。

・家族がいるなら、子育ての見通しも。
・利尻、礼文との人事交流についてもぜひ考えてみてね。

〇残るなら、自分は校内のどんなポジションでがんばりたいのか。

・何年生を担任したい、こんな分掌を持ちたい（次年度だけではなく、数年後も見通せるといい）
・職場で共通にある「めざす学校像」に向かって、自分が引き受けられること
・挑戦しなければならないことは何か。
・「どこでもいいッス」は禁句！ベテランの先生から怒られるゾ！若いなら野望を持て！

〇同じ職場の仲間との協働について。

・学校を共につくっていく仲間に、目を向けよう。
・時には、仲間が「あなたに必要な力は･･･。がんばりどころは･･･。」と客観的に伝える場面も必要。

これらを考える上で、一番の土台になるのは、**自分がどんな教師になりたいのか。**これを胸に刻んで、学び吸収し、楽しく次年度の学校づくりと人事の取り組みに向かっていこう！

若い先生がたくさん集まる青年部活動

「組合は、仲間づくりの場という側面の他にもう一つの側面がある。それは教職員として高め合う場という側面だ。」・・・数年前にご退職をされた組合の大先輩に教えていただいた言葉です。宗谷管内の各学校で分会あるいは青年部を中心に、困り感を抱えている先生の悩みや願いに寄り添い、さりげない支えが多く行われていると思います。利尻富士支部でも、昨年度、そういった現場を中心とした姿が見られています。宗谷全体でも、２０１２年度から、青年部学習会（学び座）が行われ、教科指導・生徒指導・行事指導などを中心に学びが育まれています。また２０１４年１１月には、全教が東京近郊で行っている青年教師と大学生の共同学習会を宗谷版にアレンジした「センたま　in　SOYA」が全国の地方で初めて行われました。

「自分は青年部の活動に参加できる年齢？」なんていうことは気にせず、「気持ちはまだまだ学びたい青年であれば、いくつでも参加ＯＫ」だと思います。みんなで盛り上げていきましょう。

組合活動の大きな節目、定期大会・支部年次大会

組合活動の１年の総まとめを定期大会・各支部の年次大会で行います。2月，多くの組合員がいる稚内支部は「年に一度は組合に集おう！」を合い言葉に，ほとんどの組合員が集まります。各分会からは１年のまとめとして，様々な発言があります。「まわりの方々に支えられ，１年間がんばることができました」，「組合に入って，人とつながりあうことの大切さを学ぶことができました。」など，宗谷教職員組合に入り，同じ職場で人とつながることの大切さ，子どもを中心において教育することの価値を見いだしてきました。

組合に入っていることを意識することは，普段そんなにありませんが，みんなで集まり語り合い，「そうだよな」と感じることができる。これが「自分は組合でがんばっているんだ」ということだと思います。一人でがんばるだけでなく，みんなでがんばる，それが宗谷の教育の大切にしていることであり，宗谷の教育の特徴です。それが多く語られるのが支部年次大会です。